



URL <http://e-jousenji.com/>

## 浄泉寺寺報

発行日 平成26年1月20日  
 発行者 浄泉寺住職 赤羽根 證信  
 住 所 大崎市岩出山字浦小路113  
 電 話 0229-72-1168

### み仏のみ名を称ふる わが声は わが声ながら 尊とかりけり(甲斐 和里子)

浄泉寺住職 赤羽根 證信

あけましておめでとうござい  
 ます。本年も何卒よろしく願い申  
 し上げます。

昨年12月5日南アフリカ元大統  
 領ネルソンマンデラ氏が95歳で亡  
 くなりました。その生涯は「どん  
 な人でも平等に生きて行ける世で  
 なければならぬ」「汝の敵を愛せ  
 よ」と活動されました。実に偉大  
 な指導者だったと思います。

一方我が国に目を転じますと、  
 浄土宗の開祖法然上人が幼少の  
 頃、父親が理由なき闇討ちに遭い、  
 臨終の場で「仇討は末代の遺恨の  
 連鎖である」と諭し、慈悲の心を  
 育むことを遺言しました。

法然は出家して、浄土教、特に  
 中国の先達善導の論に出遇い「た  
 だ念仏して弥陀にたすけ参らすべ  
 し」と、念仏者として平和へのメ  
 ッセージを残されました。

今、私達の生きる環境は物質的に  
 はほぼ満たされている様にさえ思  
 いますが、なぜか不安と不満が折り  
 重なって目標が見えにくく、なんと  
 かせねばと思っています。

30年ほど前、仙台教区主催の親  
 鸞教室を浄泉寺会場で1年間実施  
 して参りました。その後も継続し  
 て約10年間、毎月実施したあの時  
 のメンバーは30代の人々がほとん  
 どでしたし、熱心に聞法していた  
 様に思い出されます。

5年前、古川成願寺で親鸞教室を  
 行った折、かつてのそれと大分雰  
 囲気が変わったなあと思ひ、かねてか  
 ら願っていた同朋の会の発足を進  
 めることといたしました。幸いご門  
 徒の皆さんから賛同され、去る12月  
 20日結成の運びとなりました。これ  
 からどの様なスタイルになるのか  
 は分かりませんが、期待に胸膨ら



む思いでおります。

寺に寄り合い、話し合いを通じ  
 て宗祖親鸞聖人が呼びかけられた  
 「二人でいて喜ばば二人とおも  
 うべし 二人で喜ばば三人とおも  
 うべし その一人は親鸞なり」

(御臨末の御書)

の、互いを励まし、思い合う心  
 かよう念仏者の集まりである同朋  
 の会となることを願っております。  
 どうぞよろしくお願い申し上げます。  
 合掌

# 念仏の信心

責任役員 赤間 栄夫

恵信尼の手紙によりますと、寛喜3年4月14日（1231年親鸞59歳）のとき、善信の御房が夕方より工合が悪くなり臥しており誰にも看病せず、音もたてないで横になっておられました。が身体は火のように熱く、頭痛が激しいことも並大抵のことではなく、臥してから4日目の明け方苦しうに「その通りであろう」といわれましたので、「何事ですか。うわ言を申されるのですか」と申し上げると「うわ言ではない。横になって2日目以来「大経（大無量寿経）」を読むことと絶え間がなかった。目をつむればお経の文字が一字残らず輝くばかりにはつきり見える。これは不思議なことである。念仏の信心より他に何事か心にかかるのかをよくよく考えてみると17・8年前にもっともらしく衆生（生きとし生ける者）の利益のためにと浄

土三部経を千部読み始めていたけれども、『これは何事か自ら信じ人を教えて信じせしむること、真の仏恩を報ずるもの信じながら、名号（南無阿弥陀仏）の他に何が不足で、ひたすら経を読もうとするのか』と思い返して、読むのを止めてしまったことがあったけれども、それでも読もうとする気持ちが残っていたのだろうか、人の執心、自力の信心というものはよくよく気をつけなければいけないと思いついて後は経を読むことを止めてしまった。こうして臥して4日目の明け方、『その通りであろう』と申したのだ」といわれて、やがて汗を流して工合がよくなられたのだということです。

## 佐貫

この地域は鎌倉時代の御家人佐貫氏の荘園「佐貫庄」にあたり、現在の館林市と邑楽郡明和村・板

倉町・千代田町に跨る広大な面積だったといわれています。

親鸞一行が滞在した佐貫の地がどの辺りかは諸説があつて断定しがたいのですが、近年において板倉町が有力になっています。この板倉町の宝福寺という寺に、親鸞の高弟の一人であつた性信房の座像が発見されたのです。

宝福寺は県立板倉高校の近くにあり、現在は真言宗の寺ですが無住寺院となつています。性信房の座像は、もと太子堂に聖徳太子童子像とともに安置されていましたが、近年雨漏りがひどくなつて収蔵庫を作つて性信房の座像を移し、町教育委員会が管理され、県の重要文化財に指定されています。

性信房は鹿嶋神宮大宮司の子で、18歳のとき所用で京都へ赴いたとき神勅を受けて吉水に参じ、法然の教えを受けた後、親鸞の弟子となつたといわれています。

それから時を経て、下総国横曽根（茨城県水海道市豊岡横曽根）に念仏道場を開き親鸞を宝福寺の

常行三昧堂に案内した後、下妻の小嶋の草庵に案内したといわれています。また依頼を受けて越後まで親鸞を迎えに行つたという説も伝えられています。性信房は親鸞にとつて最も信頼の厚い高弟でした。性信房の足跡が具体的な形で残っている板倉町が恵信尼の手紙にある佐貫の地であることもほぼ確実であると思われます。

この板倉の地域は群馬の水郷といわれているほどの湿地帯です。したがつて一たび洪水による被害が起きるとその悲惨さには目も当てられないほどだったでしょう。

親鸞がこの地に滞在したと思われる1214年の夏には京都鎌倉亦洪水という記述が見られます。

災害に苦しむ民衆の姿に「救いた」と強く思う心が三部経読誦という行となつたのでしょうか。でも念仏以外のいかなる行もなすべきではない。この体験は思想的に見ても、親鸞の生涯の中で重要なことの一つであつたと思われまふ。

（「親鸞の教えに学ぶ」より）

## 同朋の会発足に当たって

同朋の会会長 庄 司 寿 夫

同朋とは広辞苑に（どうぼう）ともだち・仲間等」と記されています。同朋の会総会が3回の世話人会を経て、昨年の12月20日に開催されました。約30名の賛同者が集まりました。

赤羽根住職は挨拶で「人が集うお寺を中心に、お寺から発信する」「お寺に集う一人ひとりが評価する」「一人ひとりが生きる指針を持つ同朋の会」等に進んでもらいたいという願望を述べられました。

同朋の会会則（目的）で浄土真宗の教え「本願を信じ念仏申す」との聞法生活者を生み出すことを目的としています。その目的を達成する事業の一つに帰敬式（ききようしき）があります。赤羽根住職は「帰敬式を受けることは仏弟子に入ることである」と常々話されています。私も同感です。特に、私も帰敬式を受けてからは、「人に

対する見方、考え方が以前より違ってきた様な気がする」と毎日の生活で感じています。

その他に、身近な仏事で「神棚と仏壇のどちらを先に拝むのか」「仏壇の水とお茶の並べ方をどうすればよいか」「からの鳴き声が悪いと死人が出るといわれるが本当だろうか」等を話題にしていきたいと思っています。

この様な事業を通してお寺と檀家の皆さんとの敷居が低くなつて「何でも気軽に相談できる浄泉寺」になることを願っています。

終りに、人が生きていくということとは、決して楽なことではない。そんな日々を、人は嘆いてばかりいるわけにはいかない。同朋の会を通して、仲間をつくり、一瞬一瞬を自分でおもしろく生きる工夫をしてみませんか。

合 掌

## 「同朋の会」いよいよスタート

赤羽根住職の悲願であった「浄泉寺同朋の会」結成総会が12月20日開催され発足に至りました。

当日は26名の出席のもと、先ず赤羽根住職及び内田政明代表世話人の挨拶を戴き、世話人大坂弘氏の司会により開会され、代表世話人を議長とし議事進行しました。

議事は、同朋の会設立までの経緯説明、会則の制定、事業計画、予算案、役員選出と進められ、すべての案件が可決承認、役員は次のとおり決定しました。

会長：庄司寿夫

副会長：渋谷恭子、石崎純一

庶務：大坂弘 会計：千葉静子

連絡員：浜田悦子（横町・川原町）

同：蘇武啓子（新橋）

同：千葉静子（川原小路浦小路）

同：日下幸子（通丁）

同：小岩伊久（東川原町）

同：中山功一（二ノ構）

監事：高橋正昭、菱沼泰美

※連絡員のカッコ内は担当地区名です

総会終了後には懇親の場が持たれ会員相互の親交を深めました。

同朋の会設立については、寺報・護寺会法等で案内や呼びかけを続けており、昨年9月会結成についての説明会を開催した折には23名の方が出席され、その場で6名の世話人を選出しました。

その後、3回の世話人会を開き結成に向けての協議を重ね、同時に、集会を10月21日（21名参加）、11月20日（17名参加）と2回の集会（話し合い）も開催いたしました。集会では、日頃疑問に思っていることやお寺の行事等に関する質問が出され、それに住職が答える形で進められました。そこで感じたことは、参加された皆さんが寺の行事やしきたり等に強い関心を持つておられるということです。

今後は継続的に集会等を開催すると共に、浄泉寺の行う諸行事に積極的に参加して参りますので、関心をお持ちの方はこの機会には是非入会の上、ご協力ください。様ご案内申し上げます。



# 別院報恩講参詣と三陸久慈への旅

10月16日「東北別院報恩講参詣と三陸久慈への旅」が、浄泉寺成願寺18名の参加のもとに行なわれました。

午前7時浄泉寺を出発。古川の成願寺門徒と合流し東北別院に向かい、9時には別院に到着し開式を待ちました。当日の別院の行事は例年通り「2日目日中」。台風18号の影響もあって参詣者が例年になく少なく、本堂ががら空き状態での開催となりました。

その様な中で式は進められ、「正信偈草四句目下」「和讃」等を参加者全員で唱和し、続いて新潟県光濟寺安富信哉師による講話を聴講させていただきました。

また、別院では東日本大震災の被害者救援のためのチャリティーバザーを、去年に引き続き今年も開催中で、それに協力されている参詣者の姿が見られました。

参詣後はその場で昼食をいただき久慈市に向け出発。道中は台風

の影響による雨の中をバスは走り、途中通行止めの道に遇うなど、本当に久慈に着けるのかと心配しながらの旅となりました。

それでも午後6時過ぎにはなんとか今宵の宿である「ホテル羅賀荘」に到着し、ひと風呂浴びる間もなく懇親会が行なわれ、歌や踊りと楽しいひと時を過ごしお互いの懇親を深めました。

2日目の17日は、昨日の天気とは違い晴れ間が見られる中8時30分に宿を出発し、琥珀博物館を見学の後小袖海岸をバスの中から眺め絶景を楽しみました。その後は野田村道の駅、宮古市場で昼食とお買い物を楽しみ、午後7時には無事帰還しました。

今回の旅は旅程が長かったことと台風というアクシデントが重なり大変な旅となつてしまいました。が、誰一人不満も漏らさず何とか終了できましたこと本当に有難うございました。

終わり良ければすべて良し、来年もお楽しみに！

# 平成25年報恩講実施報告

浄泉寺報恩講は、毎年11月23日（祝日）に実施しており、今年も例年通り開催されました。

開式の前に副住職奥様のピアノ伴奏で「真宗宗歌」を合唱し午前9時30分、副住職の調声による「みんなでお勤め」に始まり、赤間責任役員の挨拶に続き、午前10時に「満座勤行」を仙台組内多くの寺院関係者のご参集をいただき、盛大に執り行われました。

続いて午前11時、今年で3年目になる、福島県会津坂下光照寺住職和田至紘師による、表現豊かで分りやすいご法話をいただき、門徒の皆さんは楽しげな中にも真剣に聴講しておりました。

最後に参詣者全員で「恩徳讃」を合唱し、その後、担当地区の皆さんが用意されたお齋をいただき散会しました。

準備のためのおみがきと当日のお手伝い、そして参詣者の皆様に深く感謝申し上げます。

# あとがき

この度同朋の会が結成されて、30年前の親鸞教室を思い出した。当時「バラバラでいっしょ」とのフレーズで同朋の会結成推進が全国的に動き始めた頃だ。考えの違う人、生活環境が違う人、それぞれが触れ合い、互いに話し合うことで心が満たされ、それが明日を生きる糧となったものだ。

当時の親鸞教室と同様、さもない話題の中にも心に沁みるものがきつとあると思う。

会は毎月20日午後2時開催。一度だけでも参加してみては？

# 年回表（平成二十六年）

一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
三十七回忌	昭和五十三年
五十回忌	昭和四十年
百回忌	大正五年